

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第77号

平成23年 4・5・6月



国宝 法相六祖坐像のうち 伝神観像（興福寺所蔵）一名品展「珠玉の仏たち」よりー

特別展

誕生!中国文明
4月5日(火)～5月29日(日)
東新館・西新館

名品展

珠玉の仏たち
4月～6月 通期開催
なら仏像館
中国古代青銅器
4月～6月 通期開催
青銅器館(坂本コレクション)

珠玉の仏教美術
6月14日(火)～7月3日(日)
西新館

特別展

誕生！中国文明

4月5日(火)～5月29日(日)

会場…東新館・西新館

中国大陸の中央に位置し、黄河に抱かれた河南省。幻の初期王朝といわれた夏王朝以来、隋・唐・宋に至る約三千年間にわたり、この地は中国の政治・文化の中心地であり続けました。奈良とのつながりも古来深く、遣唐使の訪れた省内の古都・洛陽に位置する龍門石窟の大仏は、東大寺大仏と同じほとけ(盧舎那仏)です。

本展では中国文明の精髓を示す河南省の至宝約百五十件を展観し、その魅力を余すことなく紹介します。現代の感覚からみても新鮮な古代王朝の造形、漢字文化の奥深さを物語る文字資料、華麗な金工品や陶磁器、高さ二・四メートルに及ぶ石仏など、みどころは実に豊富です。壮大なる歴史が生んだ名品の数々を、この機会にぜひご観賞下さい。



動物紋飾板 (洛陽博物館)



三彩舍利容器 (河南博物院)



金縷玉衣 (河南博物院)



七層樓閣 (焦作市博物館)



香炉 (河南省文物考古研究所)



金製アクセサリー (洛陽博物館)



犬 (河南博物院)

◆展示品から



撮影：山崎兼慈

宝冠如来坐像 (龍門石窟擂鼓台)

石造 中国・唐時代(八世紀)
像高 二四〇・〇cm 龍門石窟研究院藏

河南省洛陽郊外の龍門石窟には、総数約十二万体に及ぶ尊像が岩壁に浮彫されているが、この巨大な石仏は完全な丸彫像で、近在の寺院から運び込まれ、窟内に安置されていたという。その姿は釈尊成道の地であるインド・ブッダガヤに祀られていた霊像に基づくもので、豪華な宝冠をかぶり、胸飾と臂釦をつけた姿は、装身具を着用しない通常の如来像と著しく異なる。右手の印相(触地印)は、釈尊がさとりを開いたとき、手先を地に触れて魔物を退散させたことにちなむ。仏教の原点たるインドへの憧憬が頂点に達した唐代の文化状況を象徴的に示す名作であり、目尻を上げた秀麗な風貌が強い印象を与える。絞られた腰や弾力感あふれる胸板にも、インド的な肉体美のエッセンスが顕著に示されている。

稲本泰生(当館学芸部企画室長)

名品展

昨年(平成二十二年)度より、奈良国立博物館の展示は大きく変わりました。

なら仏像館では、七月に照明設備を一新し、仏像の造形美をこれまで以上に味わうことができるようになりました。青銅器館では、展示ケース内の壁面シートと床面を貼り替えるとともにLED照明を増設し、展示品の魅力をさらに引き出すことに成功しました。さらに、西新館では、正倉院展を前に展示ケースをほとんどすべて入れ替え、天井照明を新たに設置することで、全く異なる展示空間として再生しました。

そして、従来からの仏教美術を中心とした平常展は、なら仏像館の「名品展 珠玉の仏たち」、青銅器館の「名品展 中国古代青銅器」、西新館の「名品展 珠玉の仏教美術」と名称を改めました。

これからも、より一層の魅力ある展示をおこない、一度ならず二度、三度と訪れたくなる博物館を目指していきます。

中国古代青銅器

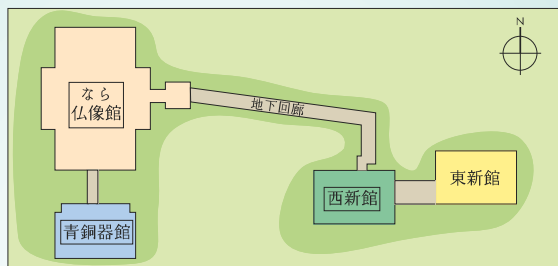
青銅器館(坂本コレクション)

4月～6月 通期開催

中国の商～漢代の青銅器を展示しています。特別展「誕生! 中国文明」の会期中(4/5～5/29)には、内容的に関連の深い青銅器館も、ぜひあわせてお楽しみください。



皿(当館)



珠玉の仏教美術

西新館

6月14日(火)～7月3日(日)

絵画・書跡・考古・工芸のジャンル別に展示をおこないます。特別展「誕生! 中国文明」が終了した後、六月中旬より開催いたします。



◎地藏菩薩像(知恩院)

珠玉の仏たち

なら仏像館

4月～6月 通期開催

国宝・重要文化財を多く含む、仏像の数々を展示しています。東大寺法華堂の金剛力士立像(国宝)も公開中です。

※四月十二日からの展示一覧を本誌の内面に掲載しています。それ以前の展示内容は、前号またはホームページをご覧ください。



◎多聞天立像(当館)

◆夏の展覧会予告◆

特別展

天竺へ三蔵法師3万キロの旅

7月16日(土)～8月28日(日)

仏法を求めてはるばる天竺(インド)へと旅立った玄奘三蔵。その生涯を全12巻という長大な画面の中に描き出した「国宝 玄奘三蔵絵」(藤田美術館所蔵)は、わが国における高僧伝絵巻の最高峰の一つに位置づけられる名品です。精緻な筆致で生き生きと描き出される人物や、華麗に彩られる山水など、中世やまと絵様式の最も完成した姿を現在に伝えてくれます。

本展では、この魅力あふれる絵巻の全貌を通じて、玄奘が東アジア仏教史上に残した偉大な足跡をたどるとともに、そのインド求法に捧げた旅の事績が『西遊記』の物語へと変貌を遂げるまでの道のりも紹介します。

(※会期中、前期「7/16～8/7」・後期「8/9～8/28」で巻き替えがあります)



国宝 玄奘三蔵絵 巻第一(部分)(藤田美術館)

特別陳列

初瀬にますは与喜の神垣

7月16日(土)～8月28日(日)

奈良県桜井市初瀬にある與喜天満神社の歴史と文化を紹介する展覧会です。

写真の天神坐像は今回が初めての公開となります。



天神坐像(與喜天満神社)

版木に託された護国の願い

— 世界文化遺産・海印寺大藏経板殿 —

斎木涼子（当館学芸部研究員）

昨年十二月、学术交流により韓国・慶州とその周辺の文化財を見学する機会を得た。是非とも訪れたいと願っていた場所の一つに、世界文化遺産に登録された高麗版大藏経板殿を有する、海印寺があった。大藏経とは、経・律・論を中心に仏教典籍を総集したものという意味で、日本では一切経という名称も用いられる。ここで保管される版木の数は八万枚を超えることから、「八万大藏経」とも呼ばれる。

この大藏経は、仏力による蒙古撃退を願った高麗国王の

高宗によって雕造さ

れたもので、一二三

六年に事業が始ま

り一二五一年に完

成した。大藏経（一

切経）の印刷と言

えば、北宋の蜀版

一切経（開宝蔵）に

始まる宋版一切経

が有名だが、周辺

国でも蜀版を底本（基

準となる本）に大

藏経の雕造が行わ

れた。その一つが、

十二世紀に雕造さ

れた高麗版大藏経（初雕本）だった。高麗は仏教を非常に篤く信仰したことで知られ、多大な労力を要する大藏経の雕造もその一例といえる。この初雕大藏経は、高麗を北から脅かしていた契丹を追却するという祈りが込められていた。

ところがこの初雕版は、一二三一年の蒙古の攻撃により失われてしまう。その蒙古撃退を願い再び雕造が命じられたのが、「八万大藏経」（再雕版）だった。当時、蒙古の侵攻により高麗の都は江華島へと遷されていた。完成した版木は江華島大藏経板堂に集められ、高宗は百官を率い慶成会を行ったという。

やがて一三九八年、版木は漢城支天寺に移され、翌年海印寺へと運ばれている。その理由は定かではないが、より安全な内陸部へ安置しようとしたのではないかと考えられている。それ以来、六百年以上にわたり、この海印寺で八万枚の版木が保管されてきたのである。

海印寺は慶尚南道陝郡の伽耶山にある。本堂にあたる大寂光殿を更に奥に進み、一段高くなった場所到大藏経が保管される藏経板殿があった（写真1）。建物は地面の上に直接建てられ、そこに設置された棚に版木がむき出しのまま安置されている。版木の材は三年間海水に浸したものを陰干して用いたとされる。また土面に塩や灰、粘土を用いて湿度をコントロールするなど、建築技術にも様々な工夫がなされているため、保存状態は非常に良好だという。

我々は建物の格子越し、金網越しに、黒々とした版木が整然と並ぶ様を見る事が出来る。隙間無く並べられた八万三千四百枚の版木は、圧巻と言うほかない。二度の

大藏経に護国を賭した高麗の信仰の篤さ実感されるのはもちろん、はるか北の江華島からこの山上まで膨大な版木を運んできた事に、もはや執念のようなものさを感じる。高麗に続く李朝鮮は、徐々に仏教を弾圧することになったが、その治世下でも大藏経版木は大切に保持された。

同行してくれた韓国の方に、この版木で印刷された経典が日本にも現存することを伝え、とても驚いていた。日本に運ばれた再雕版大藏経は、現在では大谷大学や増上寺（東京）などに所蔵されている。なお、現在の仏教研究において標準的大藏経として利用される「大正新脩大藏経」は、この増上寺の再雕版大藏経を底本にしている。

当時、多くの日本人僧がこの大藏経を望んだであろうが、特に熱心に求めたのは室町幕府だった。何度も使節の僧侶を派遣し、ついには版木まで欲してきたという。当然ながらこれは叶わなかった。高麗王朝、室町幕府も姿を消した後も、長い歴史の中で大藏経版木が維持されてきた事を考えると、仏典を求め、伝えようとする人々の想いを感じずにはいられなかった。

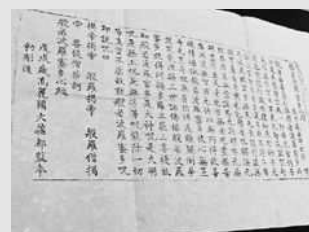


写真2 再雕高麗版大藏経 複製品



写真1 大藏経板殿 入口

名品展

珠玉の仏教美術

6月14日～7月3日
西新館

【絵画】

- | | |
|--------------|------|
| ●聖德太子繪伝 | 橘寺 |
| ●聖德太子繪伝 | 個人 |
| ●行基菩薩行狀繪伝 | 家原寺 |
| ●当麻寺緣起(掛幅本) | 當麻寺 |
| 泣不動緣起 | 当館 |
| ◎矢田地蔵緣起(掛幅本) | 金剛山寺 |
| 満米上人・小野篁像 | 金剛山寺 |
| ◎地蔵菩薩像 | 知恩院 |
| ◎地蔵菩薩像 | 地蔵院 |
| ◎地蔵菩薩像 | 当館 |
| ●地獄草紙 | 当館 |
| ◎閻魔王庁図 | 長泉寺 |
| ◎十王図 | 二尊院 |
| 兩界曼荼羅 | 南法華寺 |
| ◎真言八祖像 | 神護寺 |

【書跡】

- | | |
|---------------------------|-----|
| ◎弘法大師御勸文 | 当館 |
| ◎伝教大師求法書等 | 当館 |
| ◎弘法大師二十五箇条遺告 | 当館 |
| 香藥抄 | 当館 |
| 雑見集 | 当館 |
| 如意輪法 | 当館 |
| 立川流儀軌 | 当館 |
| ◎三弥勒経疏
(智證大師関係文書典籍のうち) | 園城寺 |
| 須真天子経 | 東大寺 |
| 瑜伽師地論卷第十六
(五月一日経) | 個人 |
| 大方等大集経念仏
三昧分卷第九 | 当館 |
| 摩訶僧祇律 卷第十九
(神護寺経) | 当館 |

【考古】

- | | |
|---|---------|
| 浅鉢形土器・注口土器ほか
〔小野コレクション〕
〔青森県 岩手県出土〕 | 当館 |
| 銅矛〔長崎県黒島出土〕 | 当館 |
| 銅鐸〔出土地不詳〕 | 妙国寺 |
| ◎銅鏡〔奈良県天神山古墳出土〕 | 当館 |
| 金製耳飾・金銀象嵌鳳凰文把頭・ガラス製勾玉・他 | 当館 |
| 〔奈良県塚山(星塚)古墳出土〕 | |
| 切子ガラス碗(イラン出土) | 当館 |
| 蔵手刀・圭頭大刀・鉄鏃 他 | 当館 |
| 〔群馬県前橋古墳(白山古墳)出土〕 | |
| 軒丸瓦 奈良県横井廃寺出土 | 当館 |
| 軒丸瓦 奈良県山田寺跡出土 | 当館 |
| 軒丸瓦 奈良県川原寺出土 | 当館 |
| 軒丸瓦 軒平瓦 | 当館 |
| 〔奈良県山村廃寺出土〕 | |
| 軒丸瓦 軒平瓦 | 当館 |
| 〔奈良県東大寺出土〕 | |
| 鬼身文鬼瓦 | 京都国立博物館 |
| 〔奈良県葉師寺出土〕 | |
| 鬼面文鬼瓦 | 個人 |
| 〔奈良県大安寺出土〕 | |
| 鬼面文鬼瓦 | 当館 |
| 〔奈良県中山瓦窯出土〕 | |
| 宝相華文磚 | 当館 |
| 〔韓国・慶州付近出土〕 | |
| ◎佐井寺僧道業墓出土品
〔墓誌・骨壺〕 | 当館 |
| 青磁牡丹唐草文鉢 | 正暦寺 |
| 〔奈良県正暦寺出土〕 | |
| 青磁四耳壺・金銅宝珠形舍利容器・他 | 菅生寺 |
| 〔奈良県菅生寺五輪塔納入品〕 | |
| 銅製経筒 大刀・青白磁合子 他 | 当館 |
| 〔近畿地方出土〕 | |
| 滑石製宝塔形経筒 | 当館 |
| 〔出土地不詳〕 | |
| ◎滑石製弥勒如来坐像 | 当館 |
| 〔長崎県鉢形鎮経塚出土〕 | |
| ◎銅製経筒〔保延七年銘〕 | 当館 |
| 〔福岡県出土〕 | |
| 六角宝幢形経筒 | 個人 |
| 〔六十六部経筒〕 | |
| 金銅製三鈷杵 | 当館 |
| 〔奈良県弥山山頂出土〕 | |

【工書】

- | | |
|------------|----------|
| 鉦鼓 | 東大寺 |
| 鉢・受台 | 東大寺 |
| 五獅子如意 | 東大寺 |
| 布薩水瓶 | 當館 |
| 說相箱 | 個人 |
| 柄香炉 | 當館 |
| 華籠 | 性海寺 |
| 三鈷柄劍 | 鞍馬寺 |
| 三鈷柄劍 | 長谷寺(奈良) |
| 笈 | 松尾寺 |
| 笈 | 當館 |
| 碑伝 | 森本坊 |
| 人峯斧 | 當館 |
| 手錫杖 | 當館 |
| 仏餉鉢 | 都々古別神社 |
| 藏王権現懸仏 | 個人 |
| 藏王権現鏡像 | 當館 |
| 男神鏡像 | 當館 |
| 二神対向鏡像 | 當館 |
| 熊野十二社権現御正体 | 當館 |
| 熊野三所権現懸仏 | 個人 |
| 十一面觀音懸仏 | 長谷寺(神奈川) |
| 二帶笙 | 談山神社 |
| 琵琶 | 丹生都比売神社 |

【表紙写真解説】

国宝
伝神叡坐像しんえいざそう（法相六祖坐像のうち）

鎌倉時代 文治五年（一一八九）

運慶の師父として名高い仏師康慶の一門によつて制作された、六体からなる祖師群像の一体。左脚を立て膝にして坐し、口を開けて仏を賛嘆する僧の姿をいきいきととらえた、鎌倉初期彫刻の名作である。本像のあた興福寺南円堂にはかつて、弘仁四十年（八一三）造立の六祖像（塑像）が安置されていたが、治承四年（一一八〇）の南都焼討で、堂もろとも焼失した。現存像はその再興像の役割を果たしたつも全く新しい様式で造られており、着衣の大胆な動きや玉眼の使用が多大な効果をあげている。奈良時代末に活躍した興福寺僧「信寂」、ないし七世紀末に新羅に渡った「神寂」にあてられる「しんえい」の像と伝えるが、興福寺伝来の法相曼荼羅（室町時代では本像と同じ姿の僧を「基操」とする。「基操・喜操」の名は延暦年間（七八一—八〇）六に実在した興福寺僧「善操」の誤伝とする見方が有力で、本像の像主もこの人物である可能性が高い。

稲本泰生(当館学芸部企画室長)



◎琵琶(丹生都比売神社)



◎当麻寺縁起(當麻寺)



摩訶僧祇律卷第十九(当館)



切子ガラス碗〔イラン出土〕(当館)

● 公開講座 ●

特別展「誕生!中国文明」

4月16日(土)「中国古代の建築—七層樓閣に見る明器の世界」
岩戸 晶子(当館学芸部研究員)

4月30日(土)「中国文明の考古学」
岡村 秀典(京都大学教授)

5月14日(土)「宝冠仏の系譜—龍門石窟の彫像を中心に」
稲本 泰生(当館学芸部企画室長)

5月28日(土)「正倉院宝物と河南省の文物」
内藤 栄(当館学芸部長補佐)

時 間 各回とも午後1時30分～3時(午後1時に開場)

会 場 奈良国立博物館 新館講堂

参加費 無料

※入場の際には、特別展「誕生!中国文明」の観覧券もしくはその半券、
友の会カードなどをご提示ください

定 員 180名(先着順)

※午後1時より、講堂入口で入場券を配布します

● サンデートーク ●

「第三日曜日は奈良博へ」

毎年恒例のサンデー・トークを今年度も行います。毎月一回、
第三日曜日の午後に当館の研究員や専門家が皆さんのために
お話をいたします。美術や歴史のこと、展覧会や博物館の活動
など、日ごろ聞くことのできない「通」な話を、肩肘張らずに聞く
ことが出来ます。当館ならではの多彩なテーマを用意して皆さん
をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

聴講は無料。展覧会の観覧券等の提示は必要ありません。
事情により、話題内容の変わることもありますので、詳しくは当館
ホームページをご参照の上お出かけ下さい。

4月17日(日)「牛玉(ごおう)の話」
内藤 栄(当館学芸部長補佐)

5月15日(日)「男はなぜ烏帽子を被るのか
—髪型と被り物の文化史—」
斎木 涼子(当館学芸部研究員)

6月19日(日)「山形の話—作り物閑話の式」
清水 健(当館学芸部研究員)

7月17日(日)「鬼か龍か
—統一新羅の鬼瓦—」
岩戸 晶子(当館学芸部研究員)

8月21日(日)「空海の伝えた仏画」
原 瑛莉子(当館学芸部研究員)

9月18日(日)「法然上人周辺の絵画」
北澤 菜月(当館学芸部研究員)

10月16日(日)「茶室・八窓庵をのぞいてみましょう」
吉澤 悟(当館学芸部教育室長)

11月20日(日)「二牀の僧形坐像
—その像主をめぐる—」
岩田 茂樹(当館学芸部長補佐)

12月18日(日)「写経生の労務管理」
野尻 忠(当館学芸部主任研究員)

各回とも、午後2時～3時30分(午後1時30分に開場)。
会場は当館講堂。定員194名(先着順)。聴講無料

◆奈良国立博物館賛助会

平成23年3月20日現在、一般会員(個人)37名、一般会員(団体)18
団体、特別会員3団体、特別支援会員5団体のご入会をいただいで
おります。新しく加入された方をご紹介します。

【一般会員(団体)】 金剛株式会社 様(平成23年2月ご入会)
株式会社カギオカ 様(平成23年3月ご入会)

●第40回 奈良国立博物館 夏季講座●

「玄奘三蔵とシルクロード」

毎年恒例の夏季講座も本年で第40回を迎えることとなりました。
今回のテーマは「玄奘三蔵とシルクロード」です。

玄奘は「西遊記」の三蔵法師のモデルとして知られる中国・唐代
の高僧です。正しい仏の教えを求めてインド(天竺)にわたり、数多く
の重要な經典を中国・長安に持ち帰りました。玄奘の手により漢訳さ
れた經典は、東アジアの仏教の隆盛に大きな貢献を果たし、また玄
奘に師事した日本の留学僧は、奈良仏教の基礎づくりにも活躍しま
した。

この玄奘の生涯を描いた「国宝 玄奘三蔵絵」が、この夏の特
別展「天竺へ～三蔵法師3万キロの旅」で全巻初公開となります。
今回の夏季講座では、これに関連して玄奘の事績や当時の仏教と
その美術、さらに日本でのその受容にいたるまで、様々な研究分野
の第一線でご活躍の先生方をお招きし、最新の研究成果や美術作
品の解説をして頂きます。

特別展の観覧も含めて3日間の充実した連続講座です。今年は
40回を記念し、会場を新たにして参加定員も大幅に増やしました。
仏教史や美術史の初心者の方も、奮ってご参加下さい。

開催日：平成23年8月23日(火)～25日(木)

主 催：奈良国立博物館・奈良女子大学

会 場：奈良県文化会館国際ホール(近鉄奈良駅から徒歩約5分)
※会場が変わりました。お間違えのないようご注意下さい。

受講料：3,500円

※会場費、テキスト代などを含みます。受付け決定後に振り込んでい
たきます。

定 員：900名

※先着順。ただし定員数の8割を超えてから到着した分は、奈良国
立博物館友の会メンバーを優先し、抽選で残りの2割の受入を
決定します。

日程・講師等：決定次第、ホームページやチラシ等で告知します。

応募方法：往復はがきによる、郵送に限ります。往復はがきに「夏季講
座参加希望」と書き、[氏名・住所・郵便番号・電話番号・性
別・年齢]を明記して下さい。

奈良国立博物館友の会のメンバーの方は、友の会カード番
号もお書きください。

※返信用はがきには宛名を記入してください。

※はがき1枚につき申込者1名とさせていただきます。

受付開始：5月9日(月)より

応募締め切り：7月20日(水)必着

※受付開始日より先着順で随時受け付けいたします。

定員の8割を超えてから到着した分は、優先者と当選者を決定の上、
受入の可否を7月29日(金)までにご連絡いたします。

申し込み先 〒630-8213奈良市登大路町50 奈良国立博物館 教育室
問い合わせ先 教育室 電話 0742-22-4464 FAX 0742-22-7221

◆キャンパスメンバーズ

当館は、大学等と連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核とし
て文化や歴史を共に学ぶ場を提供する「キャンパスメンバーズ」の
制度を設けております。

会員大学等の学生および引率教職員は名品展については無料、
特別展については400円で観覧できます(共催展の場合は別途定
めるものとします)。学生証(引率教職員は身分証明書)の提示を
お願いいたします。

〈会員大学等〉

大阪成蹊大学芸術学部、大阪大学、大阪樟蔭女子大学・大阪樟
蔭女子大学短期大学部・樟蔭高等学校・樟蔭中学校、京都外国語
大学・京都外国語短期大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学、
京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都精華大
学、京都大学、京都橘大学、京都伝統工芸大学校、京都ノートルダ
ム女子大学、京都文教大学・京都文教短期大学、近畿大学文芸学
部、近畿大学大学院文芸学研究科、実践女子大学・実践女子短
期大学、就実大学人文学部、帝塚山大学・帝塚山高校、天理大学、
同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等
学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、
奈良県立大学、奈良佐保短期大学、奈良産業大学、奈良文化女子
短期大学・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美
ヶ丘高等学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈
良大学、佛教大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部
(五十音順)(平成23年3月20日現在)

重要文化財 じゅういち めん かん のん かけ ほとけ 十一面観音懸仏

神奈川・長谷寺
1面 銅製 鍍金 径79.1cm
鎌倉時代 元徳二年(1330)

神奈川県鎌倉市長谷に位置する長谷寺に伝来する重要文化財の懸仏6面のうちの1面。直径が80センチ近い大型の懸仏で、本堂に懸用されたと推測される。鏡板の中央に、盤石上に立ち錫杖を右手に執るいわゆる長谷寺式の十一面観音像を表し、上方に五花形の天蓋を、足下左右には華瓶(後補)を配している。懸仏は鎌倉時代半ば頃から大型化し、圏線で内区・外区に分けて外区に三鈷杵や鉤を配したり、内区に天蓋や華瓶、あるいは波濤や卓上の六器を表すなど装飾性を増していくが、本品も外区の三鈷杵や覆輪の丸笠鉤、内区の天蓋、華瓶に時代的な特性をみることができる。

十一面観音像の左右に刻銘があり、向かって右に「南無大悲観世音」左に「元徳二年二月十日 沙弥高阿弥陀仏(敬白)」と記される。長谷寺伝来の他の懸仏には「元徳三年」「嘉暦元年」の年紀がみえ、作風も近似することから、いずれも鎌倉幕府が滅亡する直前の嘉暦～元徳年間(1326～1331)頃に制作され、奉納されたものとみられる。

鎌倉の長谷寺は、開創年代が定かでないが、本尊は大和国の長谷寺(奈良県桜井市)と木と伝えられる高9.18メートルの長谷寺式十一面観音像の巨像で、当寺に伝わる文永元年(1264)銘の梵鐘の銘文中や「嘉暦元年」銘の懸仏の銘文中に「新長谷寺」とあることから、大和長谷寺の信仰と利益を政治の中心地となった鎌倉に移して新たに造営された寺と考えられる。また、坂東三十三所観音巡礼の第4番札所に当たっており、坂東三十三所の成立した13世紀前半には伽藍が整っていたと推測される。大和長谷寺の十一面観音は中世に信仰が拡大し、各地で長谷寺式の模像が造像された。同じ形式の仏像にはそのまま利益や功德が継承されたと考えられたからであろう。長谷寺式の像を表す本品も、長谷観音の広大な利益を期待して、その御前に奉納されたものであろう。中世の人々のひたむきな信仰心を感じていただければ幸いである。

清水 健(当館学芸部研究員)

◆西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて、
6月14日(火)～7月3日(日)に展示

名品展の みどころ

重要文化財 こう ほう だい し ご かん めん 弘法大師御勘文

奈良国立博物館
2巻 紙本墨書
[上巻]縦28.8cm 長1174.0cm [下巻]縦28.8cm 長1234.0cm
平安時代(12世紀)



本書は、空海(弘法大師、774～835)に関する各種の史料を年代順にまとめた、一種の伝記である。図版(上巻)の冒頭部分には、宝亀の11年間は光仁天皇が

皇位にあり(1行目)、同5年に弘法大師の誕生した(2行目)ことが記され、続いて「日本最初真言高祖」である弘法大師が讃岐国出身で、父は佐伯氏、母は阿刀氏であるとの記事を書ける。宝亀6～9年の間は記事がなく、同10年には、空海が幼年期に見たという夢の内容が記されている。同行の行頭にやや小さく墨書された数字「十四」は同年が中国の大暦14年に当たることを意味し、その下に朱で書き込まれた数字「六」は、空海の年齢を示す。以降、空海の没年である承和2年(835)まで、基本的にこの形式で生涯の事績が記述されている。

こうした空海の伝記は、没後もない時期に弟子の真済が撰述した『空海僧都伝』を皮切りに、平安時代から江戸時代に至るまで、実に様々なものが編まれた。当初は短編だった空海伝は、時代が下るにつれ、自身の詩文や周辺の官符・記録類を豊富に取り込みながら、次第に事績を網羅的に編集したものへと発展していった。現在知られる空海伝は、ある研究によれば90種類以上という。

そのなかには、本書と同様に年代記にまとめられた空海伝も数種ある。『弘法大師行化記』(続群書類従所収本)と呼ばれる伝記はその一種で、かつ年代記形式では古い時期のものだが、本書の内容はそれと一致する部分が多い。現存する写本としては、「行化記」よりも本書のほうが古いので、本書は年代記形式の空海伝を研究するうえで欠かせない史料と位置づけることができる。

野尻 忠(当館学芸部主任研究員)

◆西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて、
6月14日(火)～7月3日(日)に展示

開館日時(4月～6月)

■開館時間

午前9時30分～午後5時
〔開館時間延長日(午後7時まで)〕
・4月29日(金)以降の毎週金曜日
・4月30日(土)から5月28日(土)までの毎週土曜日
※いずれも、入館は、閉館の30分前まで

■休館日

毎週月曜日(ただし5月2日は開館)

■無料観覧日(名品展のみ)

5月5日(こどもの日)と5月18日(国際博物館の日)は、名品展の観覧料が無料となります。

観覧料金

特別展「誕生!中国文明」

	一 般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,400円	1,000円	500円
団体・前売	1,200円	800円	300円

※団体は20名以上です。※前売券の販売は4月4日(月)まで
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

名品展

	一 般	大学生
個人	500円	250円
団体	400円	200円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、
障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。



〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので
最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

 **奈良国立博物館**
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ(PC用) <http://www.narahaku.go.jp/> (携帯用) <http://www.narahaku.go.jp/mobile/>

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は90円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。